

自 己 評 価 表

愛媛県立松山工業高等学校（全日制課程）

学校番号

24

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する豊かな人間性と創造性を備えた実践的な技術者を養成する。	重点目標	1 基本的な生活習慣の確立と自律心の育成 2 分かる授業の展開と基礎・基本の定着 3 探求心の涵養と創造力・実践力の育成 4 資格取得の実践とキャリア教育の充実 5 部活動の充実と個性豊かな人間性確立 6 地域との連携とボランティア活動推進
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	ICTを活用した授業を、全教員の90%以上が実施できることを目指す。 A：90%以上 B：75～89% C：60～74% D：50～59% E：49%以下	A	生徒全員にパソコンが配布され、全教職員がTeamsを活用した授業（オンライン授業含む）ができるよう2回以上の研修を行い、ほとんどの教員がICTを活用した授業ができるようになった。	来年度の新生から、新しい教育課程と評価方法が始まる。さらにICTを活用した授業改善が必要になるだろう。ICT課や図書研修課等と連携し、ICT研修と授業改善につながる研究授業等を充実させるとともに、それが確実に実践できる体制を構築していきたい。
		「分かる授業」と「考える授業」を展開していくために、生徒用授業アンケートの回答欄「説明が分かりやすい」と「生徒の反応を大切にす」の回答率90%以上を目指す。 A：90%以上 B：75～89% C：60～74% D：50～59%	A	今年度より、授業評価アンケートの回答を「そう思う」、「あまりそう思わない」の2択から4択にしてアンケートを実施した。その結果「説明が分かりやすい」、「生徒の反応を大切にす」の項目で「そう思う」がともに70%以上、「ややそう思う」がともに20%以上で両方合わせると95%以上が肯定的な結果となった。その他の項目も90%以上が肯定的な結果となった。	教員の授業評価の結果は非常に良かったが、生徒の自己評価項目「質問する」、「予習や復習を行う」の結果はもう一つであった。主体的に授業に取り組めるような工夫・改善をしていく必要がある。また、結果に一喜一憂するのではなく、教員の授業力向上を目指すためのアンケートとしたい。
	資格取得の充実	各種資格・検定試験の合格者総数5500人以上を目指す。 A：5500人以上 B：5000～5499人 C：4500～4999人 D：4000～4499人 E：3999人以下	B	コロナ禍によって受検機会は減少し、例年より厳しい状況が続いているが、合格者総数は5,196人と健闘している。これは全国と比較すると高い数値である。	資格は生徒本人の資質、興味、進むべき進路に照準を定めたものであることはもちろんのこと、生徒に自らの達成状況を把握させ、さらなる資格取得に向けた努力をさせていきたい。 2年生の資格取得状況が、取得総数やジュニアマイスター顕彰取得に大きく関わってくるため、早い段階での資格取得を奨励する。
生徒指導	基本的な生活指導の充実	自ら進んで正しい挨拶のできる生徒を育成していく。それに関する生徒自己評価の質問事項の回答率100%を目指す。 A：100% B：90～99% C：80～89% D：70～79% E：69%以下	B	100%とまではいかなかったものの、約97%の生徒が相手にあった正しい挨拶ができているとアンケート回答をしている。1年生は入学当初は声小さかったり、場に応じた挨拶ができなかったりすることもあったが、2・3年生の学校生活を見習い、改善できた。	挨拶は基本的な生活習慣や対人コミュニケーションにおいて重要なスキルであることを生徒たちが理解し、自ら進んで挨拶ができるようにしていきたい。また、生徒が主体的な高校生活を送れるように、生徒会活動と連携した取組も行っていきたい。
	交通安全指導の充実	登下校指導や交通安全教育の充実により、交通事故発生数0件を目指す。 A：0件 B：1～19件 C：20～39件 D：40～49件 E：50件以上	C	交通事故発生数は28件(R4・3.1)と昨年度より8件減少した。	朝の登校指導、生活指導、校外自転車指導、事故報告後の指導等の学校生活の様々な場面を通して、交通安全に留意した生活を送れるようにしていきたい。また、生徒会活動と連携した取組も行っていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A : 100% B : 95~99% C : 90~94% D : 85~89% E : 84%以下	B	求人数は昨年度とほとんど変わりがなく、1次合格率も昨年同様の93.3%であった。最終的には、学校推薦の就職率は100%である。	今年の入社試験では面接試験において「主体性」が重視されていた。これからは生徒に自ら考え、選択する「主体性」を育てる教育が必要である。
	進学指導の充実	生徒が自主的に学習できる環境を整えることにより、国公立大学合格者15名以上を目指す。 A : 15人以上 B : 10~14人 C : 6~9人 D : 1~5人 E : 0人	B	国公立大学合格者は13名で、昨年度より3名多くなっており、大健闘している。	本年度の結果を踏まえて、大学受験をした卒業生のヒヤリングを詳細に行う。そして、来年度の対策に活用していく。
特別活動	特別活動の充実	全国大会上位入賞10部門以上を目指す。 A : 10部門以上 B : 8~9部門 C : 6~7部門 D : 3~5部門 E : 2部門以下	A	体育的な部のボクシング部、自転車競技部、文化・生産的な部の機械技術部、メカトロ部、建設デザイン部、繊維デザイン部の各10部門で全国大会上位入賞を果たした。	昨年度と同様に体育的な部活動では、環境整備、栄養管理指導研修会の機会をより多く設けるように計画している。また、生産部については下級生を全国大会へ同行させ、大会の雰囲気、作業手順の研修、技術の習得等、学びと経験の場を多くし、次年度以降の入賞へ結びつける対策をとり、成果へつなげたい。
工業指導	社会貢献の充実	「松工ものづくり社会貢献プロジェクト」として、ものづくりを通じた社会貢献を各学科一つ以上行う。	A	全8学科とも「課題研究」を通して、一つ以上の社会貢献を目指した活動を実施している。また、地域との連携を図ることで、生徒たちの社会貢献に対する意識は高まっている。	進路課の次年度の改善対策にもあるが、生徒の主体性を育むためにも、次年度も内容を充実させた研究発表会を継続して取り組み、実施する。また、ホームページ等を活用して、情報発信も積極的に行う。
人権・同和教育	人権教育の充実	松工人権宣言の100%の周知を目指します。 A : 100% B : 90~99% C : 70~89% D : 50~69% E : 49%以下	A	各ホームルーム教室に「松工人権宣言」を掲示し、人権・同和教育ホームルーム活動やショートホームルームなどを通じて、周知の徹底を図った。1月に実施したアンケートで「知らない」と回答した生徒には、学習会を開いて周知と理解を図り、目標は達成できている。	来年度も100%の周知を目指していき、生徒が楽しく有意義な学校生活を送れるように、人権・同和教育の充実を図っていきたい。
環境整備	奉仕活動の充実	各クラス・部・科で、年1回以上の奉仕活動を行う。	A	今年度は、ほとんどの部活動が環境美化に協力していただいた。また、校内にもきれいな花をプランターで育てる等、家庭クラブにも協力していただいた。なにより、少林寺拳法部による第2教棟の内壁のペンキ塗りが一番の成果であった。	次年度は、各建物の壁や廊下の美化に力を注ぎたい。また、校内に花をいっぱいにして気持ちよく学習ができるような環境作りに努めたい。
業務改善	職場環境の整備	教職員のメンタルヘルス対策として、定期的に健康相談等の面談を行い、教職員の健康障害0名を目指す。	B	教職員のメンタルヘルス対策として、定期的に健康相談等の面談を行い、教職員の健康障害は0名であった。また、テレワークの推進によって勤務時間の短縮化が可能となり、メンタルヘルスの向上が見られた。	テレワーク実施のための環境整備や事務処理の軽減に努め、働き方改革を推進しさらに働きやすい職場作りに努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。